

第3回美浜区地域福祉計画策定委員会

日時：平成17年8月20日（土）

10:00～12:20

場所：美浜区役所4階講堂

出席者（委員）北委員長、岡田委員

（幸町地区）佐々木委員、鈴木委員、小野委員

（稲毛海岸・高洲・高浜地区）長倉委員、小倉委員、安保委員、続委員、
植原委員、長谷川委員

（真砂・磯辺地区）高橋委員、矢野委員

（幕張西地区）角幡委員、相澤委員、小川委員

（欠席）桑原委員、佐藤委員、畑佐委員、石井委員

（市側）西郡美浜福祉事務所長、高須保健福祉総務課主査、
今泉主査、翠川主事、植田主事

1. 開会

（高須主査）時間になりましたので、第3回美浜区地域福祉計画策定委員会を開会いたします。

本日は、真砂第一中学校から岡田校長先生が、美浜福祉事務所からは西郡所長が出席しております。

それでは、美浜区地域福祉計画策定委員会北委員長よりご挨拶をお願いいたします。

（美浜区策定委員長挨拶）

千葉市が地域福祉計画を作るにあたり、大きな特徴としては、1点目は、各区としての計画を作ったということ。2点目は、策定委員会メンバーが自治会、老人会等地域の組織を中心にたくさんの方から選んでおり、今後の立ち上げにかかわる人たちが委員になっていること、各団体を代表しているわけではないと思うが、団体に長くかかわってきた立場からご意見いただきたい。3点目は、美浜区で作成するが必ずしく区職員の姿が見えない点があったこと、がある。また、記述自身は各作業部会委員が記述しているので、うまく体系的な総合性をもったものになっているかどうか検討していただきたい。

ここまで計画を作ってきたが、今後どう執行していくについても議論いただきたい。

市策定委員会は2回終わったところだ3回目は8月末ごろを予定している。

（高須主査）それでは議題に入らせて頂きたいと思います。議事の進行につきましては、

北委員長からお願いします。

2. 議題 進行：北委員長

(1) 美浜区地域福祉計画素案について

(北委員長) 手元に計画素案、常盤平団地、市川市地域ケアシステム、千葉市外郭団体の見直し資料、これは社協にかかわる情報提供がされているので、これらを絡めて議論していきたい。

計画素案に関して、「あんしん支え合いネット」をはじめ、議論のポイントを5つ載せてあるが、事前に読まれて素案の記述について意見があればだしてほしい。また、7ページに4つの基本目標案があるので、意見を出して欲しい。

その後基本方針1から議論していただくが、それぞれ協の論点について議論していきたい。基本目標については全体の議論が進んでから話をしたい。

それでは、基本方針1、16ページ「あんしん支え合いネット」の構築について安保委員からお願いしたい。

(安保委員) 「あんしん支え合いネット」の担い手が出来るかどうか検討したい。市川では、14支部がそれぞれネットを作っているが、13年4月から徐々に広げていったもの。美浜区では社協地区が中心になり、ボランティアを活用して運営してはどうか。美浜区の10部会がすぐに作るのは難しいが、各団体の方にご検討いただきたい。現在の進捗状況は、高洲高浜地区社協の川西さん、民生委員協議会の佐々木会長、ボランティア団体のハマユウの会と話をしている。担い手が出来れば、計画としてあげていきたいのでよろしく願いしたい。

(北委員長) この計画は市との協同だが、市民への周知は文章なので、します、と記載されればやるということになる。実施します、検討します、というような文言の整理が必要だと思う。

市川の例を参考にして美浜区でやろうということであれば、文章の中に民生員や自治会地区連の名前が出てくるので、よく検討したほうがいいのではないかと。

(安保委員) もう1点、相談員の拠点について、市川は8拠点(中学校区)だが、美浜区の場合は、中心に1つ大きい拠点をつくり、計11拠点にして相談員を集めて24時間体制にするなど充実させたい。

マグネットについては、各戸に配布して冷蔵庫に貼り付ける、緊急のときの電話先を記したものだ。市川の場合は弱者(障害者等)対象だが、区では全てを対象にしたい。

公団にも安心登録カードがあるが、マグネットがあればすぐに通報できるので、孤独死対策にもなる。通報が、なにかしやう、というきっかけにもなる。個人ボランティアが通報の受皿になりうるのではないかと。地域のボランティアの受け皿にもなりうる。

(小川委員) 拠点はどこか。コミュニティセンターに24時間人を配置するのか。

(安保委員) 拠点はコミュニティセンターを考えている。時間はセンター開館が9時から

8時までなので、それ以外は携帯電話対応。電話で24時間の方が相談しやすいという声もある。

(小川委員) コミュニティセンターに電話後、ボランティアにはどうつながるか。24時間可能か。

(安保委員) 訪問看護センターにつなぐなど、今後検討する。やり方はある。

(小川委員) きちんと体制をつくるべき。仕事なら出来るが、ボランティアだと難しい点も考えられる。「実施する」ではなく「目指す」という方向ではどうか。

(安保委員) 最初から出来るかどうかはわからないが、どうしたらできるか考えていきたい。

(高橋委員) 地区社協も仕事が多い。社協等との事前の根回しをした上で提案すべき。出来るかどうかの裏づけがないと空論になる。社協の現状の認識が必要ではないか。

(安保委員) 根回しはしていないが、その意味でも今回ここで挙げた。

(相沢委員) 高洲の川西さんとの話し合いの状況は。

(安保委員) 高洲コミュニティセンターに拠点を置いた場合、協力してもらいたいと話している。

(長谷川委員) 在宅介護支援センターとの関連は。在支、いのちの電話、保育園・幼稚園の育児相談など既にやっているところとどう関係していくのか見えない。

(安保委員) 今は対象者が縦割り。包括的に対応できるシステムにしたい。

(北委員長) 社協の動向、在支等既存相談施設との関係、実行部隊・相談員の確保という課題等があるので、「あんしん支え合いネット構想」として提案し、継続課題としてはどうか。たとえばモデル事業で実施、高洲でできれば広げていくという形ではどうか。

(安保委員) 孤独死対策、地域の監視システムとして有効だと思う。前向きに進めて生きたいと考えている。

(北委員長) 横断的、包括的である分相談員の責任が重くなる。具体的な実行はいろいろな検討が必要。

(北委員長) 1についてなにかあるか。

13ページ「NPO法人ちば地域再生リサーチ」について、後日当事者の方を呼び、内容を聞きたいと考えている。日にちが決まったら報告する。

文言について、14ページの高齢者自身に問題があるかのような表現や、16ページのパーセンテージの数値の不一致等の整理をお願いしたい。

(北委員) 関連するので議題 孤独死対策について、高須主査から説明をお願いしたい。

(高洲) 松戸市の常盤平団地町内自治会の取り組みについて説明したい。昭和40年代に入居が始まった団地で高齢化が急激に進み孤独死発生が多い。松戸市の実態調査では、50代の若年でも、集合住宅だけでなく戸建でも発生しており、男性に多いという調査結果がある。常盤平団地では、緊急時通報システム、新聞販売店との協定締結、カギ専門店との協

定締結、あんしん登録カード、民生委員による見守り活動等に取り組んでいる。こういった取り組みを美浜区でも出来るようであれば、計画に取り入れていくのはどうか。

(安保委員) 公団で「あんしん登録カード」を発行しているが、団地内に限られている。一戸建ではどうか。

「あんしん支え合いネット」は、孤独死を考えるとところから発想したものだ。「あんしん支え合いネット」のマグネットなら個人情報が出ない等の利点がある。

(北委員) 電話できる人だけとは限らない。そういう人も含めた孤独死対策が必要ではないか。

(安保委員) 「あんしん支えあいネット」を孤独死対策の中に位置付けてもいいと思う。

(北委員) 孤独死対策を項目としてあげなくてよいということか。

(安保委員) 併用してできるのではないかという提案だ。

(高橋委員) 孤独死発見の平均日数は。時間的余裕、人員配置を考える上でわかれば知りたい。

(高須) 警察の検視報告を見ないとわからない。具体的取組としていくなら調べる必要がある。孤独死防止というテーマはインパクトがある。引きこもり防止や社会参加への旗印にもなるのではないか。

(安保委員) 死亡前と後、両方の問題がある。公団のカードは死んでからのもの。あんしんネットは予防の方を考えたものだが、死んでからも効果がある。孤独死を予防するシステムが必要だと思う。

(高橋委員) たとえば、10日で発見なら訪問日数を増やす等の対応のために聞いた。

(角幡委員) 死亡前と死亡後は整理して考えるべき。死んでから何日で発見というのは関係ないのではないか。安心カードがあり、連絡があればより早い発見ができる。

(高橋委員) 具合が悪いときに早く発見できるように、と思って聞いた。

(佐々木委員) 死後日数は大切。孤独死が何故問題かに対応を考えるべき。安心カード、安心ささえあいネットとそれにつながる他の対策が必要。

孤独死が旗印になることは重要だと思う。市の実情が知りたい。

(西郡所長) 16年6月現在の独居老人は2,343人。民生委員からのデータである。

(北委員) 資料の中に、一人暮らし、2階以上居住者のデータ等がある。安心ネット以外にも孤独死対策を考えていく必要があると思う。

(高須) 孤独死は、定義が決まっていない、全国的な統計がない、国としての施策も決まっていないというのが現状。

(北委員長) 孤独死対策を項目に上げるということでもいいか。

(植原委員) 参加する手話サークルに来なくなった人がいて、おかしいと思って訪問したら風呂で亡くなっていたということがあった。

(北委員長) サークルの活動が孤独死対策になっているということと、高齢者についても

そういう居場所が確保されていることが重要だということによいか。

(北委員長) 社協の資料について高須さんから説明願いたい。

(高須) 社協の役割は、地域福祉の中核的な役割を果たしている。組織は、職員数 117 人(常勤 58、非常勤 59)、常勤のうち市からの派遣職員が 19 人(3 年周期の派遣、うち 11 人が管理職)、プロパー職員は 39 人で若い人が多く管理職は 8 人。財務状況は、自主財源は低い。子どもルームと時間外保育に係る運営が主。社協の運営については、報告書の 110 ページにある。児童福祉受託事業が全体の 70%を占めている。

地域福祉は、地域福祉課の地域係が行動計画を策定しているが、地域にあまり知られていない、受託事業が多いなど、今後のあり方を見直す分岐点にあるのが現状である。

(高橋委員) 社協がやっていることは知っているが、地区部会を対象に協力してもらおうというなら、地区部会でやっていることを皆が知るべきでないか。

(安保委員) 地区部会は会費集めに苦労している。ささえあいネットができれば、会費集めの大義名分にもなるのではないか。

(小椋副委員長) 安易に地区部会や社協にお願いするべきではない。地区部会でもボランティアが集まらないのが現状。安否確認は民生委員がやっている。人数を増やして週 1 回確実に訪問するなど活用してはどうか。

(高橋委員) 社協や地区部会でどういうことをやっているのかわからないで言っても、協力してくれない。

(小椋副委員長) 構想は立派でも地に足がついていないといけない。

(北委員長) 一年間フォーラムをやってきたなかで、各団体の中で今日の議論も含めてここで話し合われたことを報告し、検討してほしい。

(長倉委員) 今日は社協美浜区事務所の人は来ていない。地域で活動する主だった地区連協の人がいる場で話をしないと進まない。根回しもできない。市担当者が区と連携して各団体の責任者を もってやってもらいたい。

(北委員長) 基本方針第 4(福祉を支える仕組みづくり人づくり)を検討する中で、市社協、区社協と話をし、計画に対する意見を文書でほしいとお願いしたが、区社協としての回答は難しいとのことだった。

素案は各団体の長に送付する。皆さんは、市の依頼を受けた各団体から参加している。今日の議論も含めて、各団体で話をしてほしい。その上で意見を出してもらいたい、反映させていきたい。

(小椋副委員長) 各団体の代表者の方たちに集まっていただいて、話し合う場を設けてはどうか。

(長倉委員) 委員長名で社協地区部会長を集めてほしい。自治会連合会の会長にも来てもらう。

(角幡委員) 大勢集まっても議論が進むかわからないし、皆に今までの経過を分かっても

らうまでが大変。フォーラム委員が各団体の会合などに出向いて説明することも必要ではないか。

(高須)あやふやな段階で話を持っていっても話が進まない、何を依頼されているのかわからないのでは。まとめた段階で話を持っていくほうがよいのではないか。

(長谷川委員)素案を読んで、こんなにたくさんできるだろうかという印象。頭のいい素案だが、受け手がいるのか。住民が本当に必要だと考えてないと、ひとつひとつ物凄いエネルギーが必要なことから、実現するのは無理なのでは。

(角幡委員)みんなで作っていくものだから、案段階で広い意見をもらっていかないと、決定してから各団体に持っていっても協力が得られないのでは。協働の意識や過程が見える必要がある。

(北委員長)各団体に議論してほしいという提案か。

(角幡委員)そうだ。

(鈴木委員)先ほどの高須さんの発言は、社協の体質を考えてのものか。上から与えられたことをこなすという組織の体質なのか。

(高須)民児協(民生・児童委員協議会)を想定していた。役割が決まっている団体に依頼する場合のことを考えた。

(高橋委員)受け皿になる団体が了承しないまま計画を作っているのか。できない部分もあるかもしれないので協議の場が必要。

(安保委員)地域福祉は担い手探し。地域の力が問われている。

(北委員長)重要な点なので、発言していない方からも意見をいただきたい。

(小野委員)受け皿探しも含めて進めるべき。

(続委員)各団体に内容を下ろしていくべき。社協の資料の意味は。

(高須)受け皿と期待される社協の機能強化に関連して、現状と問題点の情報提供のため。

(矢野委員)1年かけてある程度まとってきたので、ここで各団体の長に報告して、意見を聞き、賛同してもらえるようにするべき。

(相澤委員)一番の担い手は地区社協の方たちだと思うので、集まってもらい意見を聞く必要がある。

(小川委員)担い手とのコンタクトがとれていない。ここで各団体に話を各団体に投げるべき。実行する人たちと話し合う推進協議会を早く作るべきだったかと思う。

(岡田委員)アイデアは出た。担い手が一番難しく、大事。既存組織ももとの仕事があるので調整が必要。

(北委員長)素案4ページにあるが、この計画は、これまでの高齢者、障害者といった従来の縦割りではなく、横割り、暮らしの視点で実行していけるかチャレンジである。計画案が出たので担い手の議論が必要。そこで、各団体にも出席してもらい、拡大策定委員会を開催することでよろしいか。各団体には資料を送るので、各委員は内容について説明を求められたらよろしく願いたい。

(一同了承)

29ページ、地域ケアセンターの取り組みについて、内容が重くどこまで実現できるということがあるので、「検討する」「考えられる」という表現になっている。

基本方針2～4で何か意見があれば伺いたい。

ないようなので、散会としたい。

(高須) 拡大策定委員会は、9月末頃を目途に開催し、出席は、策定委員25名のほか、社協地区部会長、単位民児協会会長、自治会地区連会長に出席依頼したい。

(高橋委員) 美浜区地区社協職員にも出席してほしい。

(北委員) 孫世代まで幸せに暮らせる街にできるようにしていきたい。こらからもご協力願いたいと思う。

(散会)

今後開催予定

美浜区拡大策定委員会：平成17年9月下旬

美浜区策定委員会：平成17年10月22日(土)美浜区役所講堂